

秋田地域留学生等交流推進会議

事業名	第三の故郷を見つける農家民泊2013			
実施期間	平成25年10月5日～6日, 11月9日			
場 所	秋田県仙北市西木町(農家民宿, かたくり館)			
参加者	外国人留学生	地域住民・企業等	その他	合計
	63 名	18 名	27 名	108 名

<実施内容>

秋田地域留学生等交流推進会議では、「第三の故郷を見つける農家民泊」と題し、秋田県仙北市西木町において五度目となる、秋田県内の留学生や日本人学生と地域農家の方々とがグリーン・ツーリズムを通じて交流を深めました。



11月収穫感謝祭ツアー(かたくり館前にて)

「第三の故郷を見つける農家民泊」事業では、二回の農業体験プログラム(農業体験ツアー、収穫感謝祭ツアー)を実施しました。10月5日、6日の農業体験ツアーでは、各農家に分かれて農作業と民泊をしました。農作業では、栗拾い、里芋掘り、人参掘りなどを行いました。料理作りでは、そば打ち、きりたんぼやゆべしの他、様々な料理作りを手伝いました。地元で取れる食材を活かした秋田の伝統料理に感動し、美味しくいただく一方、農家さんの機転によりペルー出身留学生の手料理を堪能した班もありました。農作業体験については、留学生だけでなく日本人学生にとっても貴重な体験になったようです。二日目は、農家さんと学生が作った「海苔巻き」などのお弁当を持ち寄り、クリオンで交流会を開きました。自分たちで作った料理を味わい、また、他のグループにも自分たちの料理を分け合い、心温まる交流が続きました。その後、2日間の体験を振り返り、自分たちの体験を英語と日本語で発表しました。例年、自由時間後、解散でしたが地元食材のお蕎麦を味わえることとなり、赤蕎麦の実がなる景色背景に記念撮影を行いました。

11月9日の収穫感謝祭ツアーでは、同じグループメンバーで再会しました。参加した留学生にとって、ほぼ初めての餅つき体験、地元の食材を使った料理作り、アルバム作成を行いました。アルバムは、農業体験ツアー時の写真を用いて心を込めて作成し、お世話になった農家さんへプレゼントしました。アルバム作りを通して10月の体験を学生それぞれが振り返り、また、宿泊先の農家さんにアルバムをプレゼントし、お互いの思いを伝え合うことで、より思い出が深くなったように感じました。

<参加者からのコメント>

鄭多珍さん(韓国)/JEONG DAJIN

今回の農家体験は日常生活では経験できなかった色々なことができて、本当に特別な思い出になりました。特に、母国では栽培されていない様々な農産物を見たり、収穫したり、その農産物で作られた料理を食べることもできてとても良い経験だと思います。さらに、ニンジンを自分で掘って食べましたが、今回の農業体験により、普通に食べていたニンジンも、料理になる前にはこんなに多くの苦労が必要なものだということが分かりました。それで食べ物の大事さも感じることができました。

他には、農業体験というそのもの自体もよかったです。日本の家庭をそのまま体験できたことがうれしかったです。日本に留学しても一人暮らしで外国人専用の寮に住んでいるため、なかなか日本の家庭を体験する機会がなかったです。今回の農家体験では民宿の家族と交流しながら家族の暖かさを感じることもでき、日本家庭を経験することもできました。

私はグエンティチュチュイと申します。ベトナムから来まして、今秋田大学院生です。日本に6年になりましたけれど、初めて農家民泊体験に参加させていただきまして、本当に良かったと思います。まず、秋田大学と秋田県大学、国際教養大学の友達がたくさんできました。国際的な交流をしながら、日本の農家民泊体験をして最高の二日でした。私にとって、農家体験におけるこんなに野菜を美味しく食べることができてびっくりしました。”のどか”に配属させていただき、本当に暖かく歓迎していただきました。自分の実家に帰れるみたいな気持でした。そして、今も愛情や印象が残っています。日本のことが好き、秋田のことが好きとっており、とても楽しい体験ができて、国際交流課のや関係者のみなさん本当にありがとうございました。これから、どんな空に飛んでも、この農家民泊体験の思い出は私の宝物でいつでも忘れません。